

# 第1学年2組 音楽科学習指導案

## 研究主題

各教科における ICT を活用した主体的・協働的な「わかる授業」の創造

## 研究仮説

各教科・領域等の学習指導において、ICT機器を有効に活用することができれば「わかる授業」を実践することができ、生徒の学びに向かう力が育ち、より深い学びを実現し、確かな学力の定着と活用力・表現力の向上がみられるであろう。

1. 題材名 日本伝統音楽に親しみ、そのよさを味わおう。

## 2. 指導観

- 本学級の生徒（男子14名・女子14名）は、明るく落ち着いて授業に取り組むことができている。小規模の小学校4校から入学してくるため、小学校の時には、伸び伸びと表現ができていても、中学校に進学すると大きな集団の中で表現することに戸惑いを感じ、消極的な表現に留まる生徒が多い。音楽の授業を通して、思いや意図を表現できる力を身に付けることで、日々の学校生活でも自分に自信をもち、他者との違いを認め合える人間関係づくりを大切にしている。話し合い活動では、4人班を基本とし、机を風車のように組み合わせることで互いの距離感が近くなり、意見交流が活発に行われるようになってきた。本学習においても、意見交流をする中で、我が国の伝統音楽の特徴を理解し、箏のよさや美しさについて考えさせたい。
- 本題材「六段の調」（作曲：八橋検校）は、箏曲の作品の中で最も有名な曲の1つである。江戸時代に今日の箏曲の創始者の八橋検校が作曲したと言われている。ここではそれぞれの段の冒頭部分に注目させる。平調子による旋律と箏の音色や余韻の変化を生み出す奏法の中から、となりあう弦を中指で同時にかき鳴らす「かき爪」や、左手を使った「引き色」「後押し」といった特徴的な奏法を取り上げるとともに、速度の変化から序破急を理解し、次第に速度が速まることで生み出される音楽の効果に気づかせることで、箏曲の特徴や雰囲気を感じさせる。また、曲の生まれた背景や箏の歴史などを知ることで、日本の楽器に親しむ心情や伝統音楽を大切にしようとする態度を育成するには適した教材である。
- 指導にあたっては、箏の音色の特徴を生徒自身が捉えることができるように、鑑賞で聴き取った箏独特の特徴ある音色、どのような奏法で出されているのかを探る活動を取り入れる。速度においては、その変化を知覚するためにグラフを用いて、序破急の特徴を捉えさせる。また、序破急がもたらす効果について、個人思考の後、小グループで話し合いをさせて、まとめさせる。最後に、学習内容から箏のよさを考え、友達に伝える文章を発表する。伝え合う活動を取り入れ、より深く伝統音楽に親しみ、そのよさを味わわせる。また、ICT支援員のサポートのもとで、プレゼンテーションソフトやタブレットPCなどICTを効果的に活用することにより、生徒の興味・関心を高め、十分な理解につながる一助としたい。また、自分の考えを発表したり、他者の考えを聞いたりする活動を通して、論理的に表現する能力を身に付けさせることにもつなげたい。

## 3. 本単元における主体的・対話的で深い学び、学習評価の工夫

### ○ 主体的・対話的な学びの工夫について

本題材では、導入場面で、前時に演奏した「さくらさくら」の動画と「六段の調」を比較して聴くことで、箏から奏でられる美しい音色や速度に注目させる。様々な奏法を学習したり、速度の変化をグラフに表して視覚的に捉えたり、音色や序破急がどのような効果をもたらすのかを考えさせる。展開段階では、タブレットPCを活用して個人思考をした後、4人班で意見や考えを練り合い、まとめる場を設ける。終末段階では、タブレットPCのオクリンクを使い全員に共有し、発表させる。その後、本時のめあてを達成できたかどうかもう一度自分の中で整理させるために、振り返りを書かせるようにする。

### ○ 学習評価の工夫について

学習評価に関しては、まとめにおいて、奏法から生み出される様々な音色や速度の変化がもたらす効果を理解できているのか、またその考えのもと、箏のよさについて考えることだけにとどまらず、人に伝えるために、思いや意図をもって文章を作らせることで、紹介文から箏の特徴を理解して聴くことができているかどうか評価する。

#### 4. 目標

音楽への 関心・意欲・態度	○ 箏の音色や奏法に関心をもち、演奏したり鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとする。
音楽表現の創意工夫	○ 箏の特性を生かして、どのように「さくらさくら」を演奏したいのか、思いや意図をもって音楽表現を工夫する。
音楽表現の技能	○ 箏や箏曲の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な技能を身に付けて演奏する。
鑑賞の能力	○ 箏の音色や多様な奏法、速度の変化が生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽のよさや美しさを味わって聴く

#### 5. 指導計画と評価計画（総時数3時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
1 箏の基本的知識を理解して演奏しよう。① (1) 箏の基本的な知識について学ぶ。 (2) 「さくらさくら」を歌唱して演奏する。	○ デジタル教材を提示しながら座り方・構え方・爪のはめ方を学習させる。  ○ 番号で歌いながら演奏練習させる。	【関】 箏の音色や奏法に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 【技】 箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な基礎的な奏法などの技能などを身に付け演奏している。
2 箏のよさを見つけ、友達に伝えよう。① <本時2/3> (1) 音色と速さに注目する。 (2) 箏のよさについて考え、友達に伝える文章を作る。	○ 奏法によって様々な音色を生み出していることに気付かせる。また、序破急の効果について考えさせる。 ○ 定型文を提示し、箏のよさについて友達に伝える。	【鑑】 箏の奏法による音色の違いや序破急が生み出す効果について理解して聴くことができている。
3 「さくらさくら」をアレンジして演奏しよう。① (1) 楽譜に奏法を加えてアレンジする。 (2) 演奏発表会をする。	○ 自分がイメージした音色を奏法を工夫しながら演奏させる。	【創】 箏の特性を生かして、どのように「さくらさくら」を演奏したいのか、思いや意図をもって音楽表現を工夫している。

#### 6. ICTの活用について

##### ○ 本時におけるICTの活用場面

	活用場面	活用方法・ポイント	期待される子どもの姿・力
①	○ それぞれの音色の違いを言葉で表現し、奏法を知る場面。	○ デジタル教材をタブレットPCで確認する。	○ 大型テレビとタブレットPCに同じ画面を提示することでわかりやすく本時の学習のポイントである、奏法について、各手元で学習することにより、興味・関心を高め、理解することができる。
②	○ 速度の変化をグラフに表	○ タブレットPCの表に速度	○ 班で話し合い、協働したも

	す場面。 ○ 速度が変化することによって、どのような効果があるのか班で考える場面。	の変化を書き込む。 ○ 「オクリンク」を使い、班の意見をまとめる。班ごとに大型テレビに写しだし全員でまとめた内容を共有する。	のを提出BOXに保存することで学びの足跡を残すことができる。
③	○ まとめとして、箏のよさについて考え、友達に伝える文章を考え発表し共有する場面。	○ 個人の意見を提出BOXに送信させる。大型テレビとタブレットPCに映し出し紹介文を発表する。	○ 大型テレビとタブレットPCを併用することで、テレビが見えづらい位置にある生徒や特別に支援の必要な生徒にもわかりやすく提示することができる。

7. 本時の学習 平成30年11月30日(金) 第5校時 音楽室

- (1) 主眼 箏の奏法による様々な音色と箏曲の序破急がもたらす効果について考え、話し合う活動を通して、箏のよさに気づき、伝えることができるようにする。
- (2) 準備 模範CD, 模範DVD, 大型テレビ, タブレットPC, デジタル教材
- (3) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(評価方法) ◎ 本時におけるICTの活用のポイント
1. 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">めあて 箏のよさを見つけ、友達に伝えよう。</div>	○ 生徒のタブレットPCは電源を入れ、ログインを済ませた状態にしておき、すぐに授業に参加できるようにさせる。
2. 前時を振り返る。 ・「さくらさくら」のクラスの演奏動画を見る。	
3. 「六段の調」初段の模範DVDを視聴し、楽曲・作曲者について知る。	○ 大型テレビを使用し、短時間で楽曲・作曲者について確認させる。
4. 音色と速度に注目して「六段の調」初段の模範CDを聴く。 (1) 「音色」に注目する。 ・「引き色」「かき爪」「後押し」それぞれの奏法による音色の違いを言葉で表現し、音色と奏法の特徴を知る。 (2) 「速度」に注目する。 ・グラフに初段から六段までの速度変化を記入する。 ・「序破急」の速度変化の特徴を知る。 ・「序破急」によって、どのような効果があるのか班で考える。	○ 「音色」と「速度」に注目して聴かせる。  ○ 初段の冒頭部分を取り上げ、[引き色]「かき爪」「後押し」の奏法と音色の変化に気付かせる。 ◎ 奏法を知るために、それぞれの音色の違いを言葉で表現させ、奏法の特徴と関連付けて理解させる。〈活用①〉  ◎ 速度の変化をグラフに表させ、序破急がどのような速度変化になっているのか、視覚的に確認させる。また、その速度変化によって、どのような効果があるのか班で考えさせる。〈活用②〉 ○ 段ごとに速度が変わっていく事に注目させる。また、その変化が音楽の盛り上がりを表現していることに気付かせる。 ○ 自分の言葉で表現できない生徒に対しては、タブレットPCで、他の生徒の意見を参考にしながら、話し合いができるようにする。
5. まとめ、振り返り	◎ まとめとして、箏のよさについて考え、友達に伝える

- 箏のよさについて考え，友達に伝える文章を考える。
- 発表する。

文章を考え発表し共有させる。 <活用③>  
【鑑】 箏の奏法による音色の違いや序破急が生み出す効果について理解して聴くことができる。  
(ワークシート，発表内容)